小中連携による外国語活動の充実化
－小学校の教員と中学校の教員とで作り出す協働的な授業－

三浦　由美（神奈川県藤沢市立御所見中学校）

１．研究の目的

英語教育改革の背景として、文部科学省の報告「グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言」(文部科学省 2014)がある。その中で特にコミュニケーション能力の育成については、改善を加速化すべき課題が多いと述べている。さらに東京オリンピック・パラリンピックを迎える 2020 年(平成 32 年度)を見据え、小・中・高等学校を通じた新たな取組や、先取りした改革を進める必要性を述べている。特に、本研究のフィールドである公立小学校における外国語活動の教科化については早急に改革を推進していくことが期待されている。この五つの提言の中には、小学校中学年(3・4 年)と高学年(5・6 年)の外国語活動についての記述があり、次の２つのことを述べている。

①小学校中学年への外国語活動の導入は、英語学習に対する動機付けや、聞き取り、発音の向上に効果があると考えられる。また音声を中心に体験的に理解を深めることは、高学年よりも、小学校中学年の児童の発達段階に適していると考えられる。

②小学校高学年では、現在、中学校で学ばれている内容を単に前倒しするのではなく、小学校の発達段階に応じて、積極的に英語を読もうとしたり書こうとしたりする態度の育成を含めた初歩的な英語の運用能力を養う指導が考えられる。

また中央教育審議会から示された答申(2016)では、効果的な教材開発と指導者の確保が課題であると述べられている。特に 2017 年度中の早期の段階から各教育委員会を通じて、研修資料を開発・配布するとともに、新しい教材として開発していく内容を周知していくことが求められるとある。

以上のことをふまえて、指導者の確保や人材育成を進める上で小学校の教員と中学校の教員が協働的に授業を作ることが重要であると考えた。そして中学校の教員が小学校の教員と関わる意義は、義務教育の 9 年間を見通して児童・生徒を共に育てていくという連携にあるとも考える。しかし先行研究では、小学校の教員と中学校の教員が協働的に授業を進めることに関するものがあまり見当たらない。

そこで本研究では、小学校高学年の外国語活動の授業において、①小学校の担任が進める外国語活動②小学校の担任と小学校の ALT が行う外国語活動③小学校の担任と中学校の教員が行う外国語活動、この３つのパターンについて実践しどのような成果や課題があるのかを明らかにすることを目的とした。

２．研究の方法

(1)文献調査研究
(2)実態調査研究
(3)授業実践
(4)分析・考察

３．研究の成果

(1)文献調査研究

小学校の外国語活動の授業は、学級担任とアシスタント・ランゲージ・ティーチャー(ALT)や日本人英語教育支援助手などとのティームティーチング(TT)方式で行われてい

る。学級担任と日本人英語教育指導助手とのティームティーチングにおける実態調査(原2016)では、指導者の発話率から日本人英語教育支援助手中心型であることが報告されている。さらに、学級担任の発話率は低いものの、児童の理解を促すための指示や他教科での学びを例に示すなど、学級担任としての重要な役割を果たしていることも合わせて報告されている。この発話率が低いこととして考えられるのは、学級担任が外国語活動の授業に慣れていないことや英語の語彙が少ないこと、会話のスキルなどについて不安を感じていることが考えられる。このことを改善するためには、小学校教員の外国語活動に関する研修体制の充実や、担任の先生が進める外国語活動の実践的な教材開発と指導しやすいカリキュラムなどを開発していくことが重要であると考える。

全国的な外国語活動の取り組みとしては、各自治体でALT等の人材を取り入れているのが現状ではあるが、小学校の担任の先生の指導力が伸びない一因がそこにあるとも言われている。そのような人材は活用することであり授業をお任せするものではない、また外部人材の役割をALT等に事前に教育委員会が指導しておく必要があるとも言っている。とにかく教員は外国語活動の指導経験を積み、研修などを受け、実践と理論を行きつ戻りつすることでより指導力が向上する。まず自分で行ってみることが大事だと述べている。(粕谷、直山 2015)

(2)実態調査研究

①全国

日本語英語検定協会のアンケート(2014)によると、その中で小学校の現場にいる教員には不安や困り感があり、問題意識を報告している。その中で①教員の指導力や技術の向上②小学校と中学校の教員間連携の改善③小学校と中学校の組織間連携の改善についての課題を示している。

②神奈川県足柄市

平成19～21年度にかけて小・中学校9年間の一貫カリキュラムと小学校英語活動計画の作成、指導方法の工夫や教材開発を行った。特に指導方法の工夫については、中学校英語教諭2名が小学校1校ずつを担当し、小学校5･6年生の授業にティームティーチングとして関わる実践を行った。実践後のアンケート調査によると小学校5･6年生は「英語活動が好きだ」と回答している児童が増加している。また中学校1年生の「英語の勉強法はよくわかる」の項目では肯定的回答の増加が見られるなどの成果が報告されている。一方、カリキュラムのさらなる改善や、小学校で培ったものを継続、発展させ、改善していくことなどが課題であると報告されている。(井上、渡辺 2013)

③神奈川県藤沢市

2017年度からの3年間で、学区域内の小中連携を通して、小学校の外国語活動を充実化させていこうとする試みが始まる。これは、2020年度の外国語活動の教科化に向け、中学校の現役教諭が小学校の教諭に指導法や評価など、伝達講習するもので藤沢市が独自に行うものである。特に本研究と関連することは、小学校の担任の先生の良さを生かし、そこに中学校の教員の専門性を伝えるというリソースを多分に含んでいることである。この伝達講習を柱として、藤沢市全体が教科化に向けての準備に入ることとなる。こうした取り組みを通すことによって小学校の担任が、自信を持って児童の前で外国語活動の授業ができると考える。この3年間の準備期間を経て、最終的には小学校の担任が進める外国

語活動を推進していきたいとしている。

④東京都武蔵村山市　村山学園

小学校における外国語活動については、担任と日本人の支援員がティームティーチングを行っており適切な分担がなされていた。お買い物の活動を観察したが、専門的な会話や発声練習などは英語にたけている日本人の支援員が行っており、クラス全体の指示、見守り、コントロールなどは担任の先生が行っていた。どちらもしっかりと役割を担っていて、スムーズな授業が展開されていた。また、教材や進め方については事前に支援員が担任に伝えていた。こういった事前準備や授業において支援員が常時入ることで、担任の先生も安心して授業を進めていた。

⑤東京都三鷹市教育委員会

コミュニティースクールを基盤とした小・中一貫教育を先進的に行っている。校舎は施設分離型である。歴史も古く、昭和 49 年から地域のコミュニティーを基盤とした行政運営がなされ、現在は小学校 15 校、中学校 7 校が 7 学園(中学校を基盤としたコア)として学校・家庭・地域社会が協働で子どもの教育を行っている。学校教育理念としては、質の高い教育をどの学校においても保証する(9 年間に責任を持つ)こと、地域全体で「共に」子どもを育てること、そして小学校の教員は 15 歳を想像して今携わる教育を考えること。成果としての魅力は、不登校問題の解決や学習意欲の向上などがある。コミュニティースクールとして地域からの信頼を得て、小中一貫教育としての体制が確立している。

⑥東京学芸大学附属大泉小学校

筆者の創成研修場所として、継続的に授業を参観することができた。インプットを大切にして、意味のある文脈から児童に英語を聞かせていることが特徴である。身近な生活に話題を作り、それを学ぶ表現とつなげることで自然な英語表現を楽しんでいる。１年生から６年生までスパイラルな学びになっており、どの学年も充実した授業である。指導者は外国語部の教員,ALT,本大学の英語科の学生がおり、必ず事前に打ち合わせを行っていた。授業プランも全てファイルにおさめられており、教員はそれを基にしてアレンジを加えて指導を行っている。担任は、授業の進行を見守ったり、児童の指名等を積極的に行ったりしている。英語に理解がある指導者がいて、行うべき授業プランがあること、このことが充実した授業を展開する要となっているように感じた。また、同じ教材でも(絵本)学年によって使い方を変え、スパイラルな学習を行っていることも魅力の１つだった。そして同じ敷地内にある附属国際中等教育学校とは密な連携は取っていないが、確立されたカリキュラムのもとで自然に繋がっていた。今後、探究的な学習を核として、さらに発展・進化していく学校として公立学校のモデルになると考える。

(3)授業実践

①授業日程と計画について　　*FLT→Foreign Language Teacher

日　程	内　容
2016(H28)年 8 月 24 日(水)	A 小学校の先生と趣旨の理解・個人情報等の説明
2016(H28)年 9 月 6 日 (火)	A 小学校 6 年２組授業観察・担任のインタビュー
2016(H28)年 9 月 9 日 (金)	B 小学校の授業観察 (FLT と小学校の担任)　６年生３クラス

2016(H28)年９月 13 日(火)	午前　附属大泉小学校にて参観　２年生・３年生 **午後　A 小学校の授業観察（担任のみ　その①）**
2016(H28)年 9 月 20 日(火)	午前　附属大泉小学校にて参観 午後　A 小学校６年２組の授業観察（担任のみ　その②）
2016(H28)年 9 月 27 日（火）	午前　附属大泉小学校、附属国際中等教育学校の授業観察
2016(H28)年 10 月 4 日（火）	A 小学校６年２組　小学校の担任と FLT の授業参観
2016(H28)年 10 月 18 日(火)	**A 小学校６年２組　小学校の担任と FLT での授業実践**
2016(H28)年 11 月 8 日(火)	**A 小学校　小学校の担任、中学校の教員、中学校の FLT による協働的な授業①**
2016(H28)年 11 月 15 日(火)	**A 小学校　小学校の担任と中学校の教員との協働的な授業　②**
2016(H28)年 11 月 22 日(火)	A 小学校６年２組　小学校の担任と FLT の授業参観

この日程の中で次の３パターンについて分析した。

・小学校の担任が進める外国語活動　→9 月 13 日

・小学校の担任と小学校の ALT(FLT)とで進める外国語活動　→10 月 18 日

・小学校の担任と中学校の教員とで進める外国語活動　→11 月 8 日、11 月 15 日

②調査対象（藤沢市立 A 小学校）

2014 年度から中学校教員による乗り入れ授業を始めており、2015 年度からは小学校の担任と中学校の教員が一緒に授業を進めることを始めた。特に 2016 年度については、小学校の担任が中心となって授業が進められるように、筆者が授業提案（教材や指導の工夫）を行い、協働的に実践を行った。

この研究を進めるため、2016 年度 9 月から 11 月にかけて神奈川県藤沢市公立小学校の 6 年生の参与観察または実践を行った。このクラスは活力があり、お互いに何でも言い合える温かい学級である。担任は、初めて 6 年生を担当する若手であった。そして外国語活動の授業づくりに対して、前向きにたくさんのアイデアを提案してくれた。本研究の授業実践の機会を得て、小学校の担任の A 教諭が前向きに勉強したいという意欲がとても強かった。アイデアができるとお互いにメール等を用いて、指導案の検討を繰り返して進めていった。

③重点目標

A 教諭と継続的に授業実践を進める上で、最初にそれぞれの外国語活動の指導における観点を共有した。これは単元を進める上での重要な事で、互いの観点を尊重するように努めた。また、この観点については文部科学省の外国語ワーキンググループにおける審議のまとめから抜粋した。(2016)

指導における観点は次のとおりである。

（小学校の担任が大切にしたい重要観点）

・聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養う。

（筆者の考える重要観点）

・外国語の音声、語彙、表現を聞いたり話したりする実際のコニュニケーション場面において活用できる基礎的な技術を身につけるようにする。
・外国語を通じて、身近で簡単なことについて、文字、単語など読んだり語順に気付きながら書いたりする。
④授業の概要

④-(1) 小学校の担任が進める外国語活動　いろいろな国を知ろう(1時間目)

学習内容	留意点、教材	考察
Hi,friends Lesson5 ・どんな国を知っているか。(日本語で) ・でてきた国の中で２つ以上選び、理由も記入する。 ワークシートの白地図に記入、色を塗る。 ・I want to go to…を練習する ・T:Where do you want to go ? C:I want to go to… ・掲示用世界地図にネームマグネットを貼り、選んだ国を示す。	・ピクチャーカード (国、地名) 用意 ・国名のパネル ・児童：地図帳の用意 ・色々な国の本 ・ワークシート配布 ・掲示用世界地図 ・ネームマグネット **担任の児童理解、安心感**	・日本語を中心にした授業で英語の発話がなかったものの、発言が途切れることがなく、**リレー形式で繋がっていた。**お互いの異なる意見をよく聞いて、**伝え合う学びができていたのではないか**と考える。 ・**担任のファシリテートがうまくなされていた**と考えられる。 ・時間が不足し、後半の英文のターゲットの練習には至らなかった。覚えて言う練習を予定していたが、**短い時間では覚えられない児童が出るであろう**と考えられる。(予想)

④-(2)小学校の担任と FLT とで進める外国語活動　いろいろな国を知ろう(３時間目)

学習内容	留意点、教材	考察
・FLT が国名を読み上げ、児童は日本語で書き込む ・出てきた国名の練習。FLT に続いて発音する。 ・国名かるたゲーム (２人１組) ・国名バスケット	・国名カード ・担任、FLT も活動に入る。(筆者も参加) **Emma のイギリス英語の発音や音をとても楽しんでいた**	・**FLT の発音や表現をしっかりと聞いて楽しんでいた。**外国人が教室に居ることで、外国語活動の雰囲気づくりがあり、学びが深まっていたのではないかと考える。**(FLT の存在意義)** ・ゲームや活動を通して、クラスみんなで参加する楽しさが高まっていたと考えられる。**支援級の生徒も積極的に参加し**、発言も行えるような雰囲気があったと考えられる。

④-(3) 小学校の担任の先生,中学校の教員,中学校の FLT とで進める外国語活動(その 1)

学習内容	留意点、教材	考察
・自己紹介クイズ１回目 ・月を使った Sit down game ・ペアワーク ・アルファベットの導入 ・振り返り	・絵カード (先生の好きな物カード) ・月のカード ・小さいミニカード **英語をたくさん聞く中で理解する。必然性の設定**	・英語で指示したことをよく聞いて、よく考えていた。発言も途切れずに積極的に行っていた、それは**思考を巡らせることを楽しんでいた**と考えられる。 ・英語のみのデモンストレーションを小学校の担任、FLT、筆者で行った。**理解できなかったのか、聞いていなかったのか２回行うことでその後の活動に入った。**

④-(3) 小学校の担任と中学校の教員とで進める外国語活動(その 2)

学習内容	留意点、教材	考察
・自己紹介クイズ２回目 ・歌 ・アルファベット ・身の回りにある英語 ・カード作業 ・振り返りテスト	・歌は担任の先生が行う ・ピクチャーカード ・1 人 1 人にアルファベットカードを配布 →できたら教員がチェック、児童が黒板に書く ・確認テスト	・**児童のリクエストにより思考を巡らせるクイズを行った。**挙手制でなく指名制であったので言いたくても我慢する光景が見受けられた。 ・**アルファベットの名前と音の区別をしたこと**で、文が読める感覚を持った児童が増えたと観察した。(カード作業時など)

⑤授業分析　（４つの枠組みから a,　b,　c,　d とする）

・児童に対する授業後のインタビューやアンケート…a	・小学校の担任の先生への授業後のインタビュー…b
・ビデオによる児童の観察…c	・児童や指導者の発話例･･･d

	小学校の担任	小学校の担任と小学校の FLT	小学校の担任、中学校の教員、中学校の FLT
a 児童の声	・楽しかった ・英語は**覚えられないから苦手** ・多くの人と話せた ・**ちゃんと言えなかった** ・**英語は難しい、特に書く事ができない、苦手だ。**	・楽しかった ・**椅子取りゲームが楽しかった** **思考を巡らせる楽しさを味わえる**	・**初めのクイズなどの答えが何になるのか、考えるのがとても楽しかった。** ・**暇になる時間がなくてよかった。** ・音と名前があることを知った。 ・読むのは難しそうだけど、少**し読める気がする。** ・次回の授業でも**クイズを考えてみたい。**
b 担任の声	・**クラスをコントロールするのが難しかった。** ・**自分が思ったよりも児童がよく活動していた。(インタビューゲーム)**	・活動はとても楽しそうに行っていた。 ・**英語表現を理解していたので良かったのかな。**	・内容が盛りだくさんだったので、もう少し絞る。 ・文字の指導など中学に移行するような内容も**これならできそう。** **身近な指導法として有効**
c ビデオ観察	・**担任の先生を信頼して安心しながら**授業に参加していた。 ・**無理に英語を使わないこと**で、児童に負担がない。 ・**特別支援級の生徒が２回発言** **支援級を含めて、全員が安心して授業に参加している雰囲気。お互いを認め合う。**	・２人組のかるたや椅子取りゲームなど積極的に活動していたが、英語の表現を聞くというよりは**勝つか負けるかに終始していた。** ・FLT が大切な英語を話している時に耳で聞けていない。**興奮すると音が入らない。聴けない。** **勝ち負けにこだわる。正しくインプットされない。**	・**声がとてもよく出ていた。**特に担任の先生が、進めていった歌はとてもよかった。 ・全員で声を出す事がとても積極的だった。(アルファベット) ・学びの振り返り **(言葉での振り返りとテスト) ではどちらも、集中してとてもよく活動していた。** *表記について 一般的には ALT だが、藤沢市は FLT とする。 →　Foreign　Language　Teacher

d 児童や指導者の発話 ＊一部粋	担任：どんな国を知っている？ 児童A:パリ 児童B：フランスだよ。 担任：他にどうかな？ヨーロッパは？ 児童C：China 児童D:そのくらい俺も知ってる （名前カードを貼っていく） 児童E:カナダ 児童F：**メープルシロップが有名だね！** 担任：他にどう？ 児童G：オーストラリア 児童H：東ティモール 担任：地図では？ 児童I:イタリア 児童J：アメリカ 児童K：**先生、絶対言いたいです** 児童L：ベルギー 児童M：**チョコ、うまいな** 児童K:先生お願いします 担任：**まだ当たってない人** 児童L：はい、ブラジル！ （その後ワークシートを配布） 担任：国名でも地名でもいいよ、どこか行きたい国はある？ 児童：何個までですか？ 担任：３個までね。それで、どうしていきたいのか、その理由も書いて、白地図に矢印を入れよう。 児童：**日本語でいい？** 担任：**いいよ。**（作業に入る） **児童をうまくコントロールしている。児童も食べ物などにつなげて発言している。指名制を大事にし、平等性がある。**	Emma: How are you? 児童：I’m fine, hungry. 児童：**How old are you?** Emma: I’m sick. But OK! 担任：**じゃー久しぶりに国名を復習するよ。せーの！** 全員：India… （16か国を確認） 担任：**もう一回行こうか！** **TPR** Stand up. **Sit down Game で行くよ。**どの国に行きたいか決めて、それが聞こえたら座ってね。 児童：**あーあれか。** Emma: I want to go to Egypt. 児童：**オー** Emma: I want to go to China. 児童：**オー** Emma: I want to go to Spain. 児童：**エー？**やっぱりあれだな。あそこだな。 Emma: I want to go to Kenya. 児童：**エーイ・・・** （児童はどんどん座っていく） ＊この後は、２人１組でカードを使ったかるたを行った **Emma先生がいることで、英語を使おうとしているが、場面には合っていない。Emma先生の読む英文をよく聞いている。音や発音を楽しんでいる。FLTの存在意義。** ***TPR(全身反応教授法)**	Miura: Hello! 児童：Hello. Miura: Do you remember my name? 児童： Miura！ Miura: Yes, but **呼び捨て？** **正しい使い方について伝える** 児童：**Ms.Miura.** Miura: Miura is my family name. Yumi is my first name.と言って板書、Msの意味も説明する） Miura: Today three teachers! One, two three. Three teachers.(と言って指差しする） Al: Good morning, everyone. Alvaro Denielo Leiva Mendoza,my name is too long.So,Mr Al. 児童：**あ、長いんだなー** **中学校のFLT** Miura: And your homeroom teacher. Please tell me her name. 児童：Ms. Fujisawa. Miura: Three teachers! Introduction game, about us. No1 question. What food do I like No1? 児童：好きな食べ物だな・・・ 児童：肉 Miura: **How do you say” niku” in English ？** 児童：**Meat!（他の児童から答えを促す）** Miura: Yes, that’s right.soryy… Not No1. 児童：Pizza. Miura: Sorry, No. 児童：なす **児童：何ていうんだっけ？** **児童：Eggplant.** **児童：オー（自分たちで答えを出すリレー）** Miura: I’ll give hints. You can make easily. ”Camp！”（続きは左に表記） 児童：**カレー（英語で言い直す）** Miura: **Yes, curry and rice.（皆拍手する）** **児童とやり取りしながら英語の世界に引き込む。** **英語を使ってみんなで答えを出す。児童の日本語を指導者が英語で言う。聞かせる所。**

d 小学校の担任と中学校の教員が進める協働的な授業（発話に焦点化）

Miura。Good morning everyone.

児童：**Good morning Ms Miura.（前回をふまえて言えていた）**

Ms の正しい使い方を理解した

Miura: Nice to see you again.

児童：･･･（わからないので沈黙）

Miura:**また会いましたね、と言う挨拶なの。言ってみようか。Nice to see you again, too.**

全員：Nice to see you again, too.（１回でまとまった音としてみんなでいうことができる）

まとまった文として言える。とても良い感覚がある

Miura:すごいねーすぐ言える！みんなの振り返りを見ていて、音や発音のことを書いている人が多かったけど。12ヶ月のリズムもすぐ言えたし,そう言った感覚が大事だよね。And your homeroom teacher, Ms.Fujisawa.

児童：Big boss.(笑いが起こる)

Miura:今日は２人でやりますね。**今日は、聞くということを大事にしてほしいと思います。**作業などしていて切り替える時にListen!と言って手を挙げたら、パッと今みたいにしっかり聞いて下さいね。お願いします。今日もクイズを２問作ってきました。やってみましょう！

Miura: What colors do I like No1? （今日は挙手ではなく、担任の先生が指名した

児童：Purple. 児童：blue 児童：yellow 児童：silver 児童：pink

担任：**自分の好きな色でもいいよ。** 児童：pink 児童：green

児童のリクエストである思考を巡らせる問題、楽しんでいる

Miura: Yes! That’s right. （拍手が起こる）I like green. My favorite color is green.

How about Ms. Nakamura?

担任：**What color do I like No1？（担任の先生も英語を用いて質問することができた）**

児童：gold 児童：purple 児童：black 児童：silver 児童：brown 児童：red 児童：yellow 児童：pink

全員：えー（皆驚く）

Miura: **She likes pink.（担任の先生の答えを文で伝えている）**

担任**I like pink.（ここはとても重要なところ、自分のことをすぐに英語で児童に自信を持って述べている、伝えようという気持ち）**

(同様に、２問目も行った。What animals do I like? 会話の流れは割愛)

Miura: **She likes cats.**

担任： **I like cats.（ここについても伝えようという気持ちの表れ）**

担任は、すぐに自分のことを述べている。積極的な発話が見られる

Miura:アルファベットの復習をしますね。その前に、歌をやるのかな？先生お願いします。

担任：**最後の歌詞だけ確認するよ。（黒板に書く Happy Happy I’m happy. I can sing my ABC）**

これでいいかな。

児童と担任のやり取り、確認をすることで授業が流れている

児童：**いいよー（**その後大きな声でみんなで歌った)

Miura:とっても上手だね。何回くらい練習したの？

児童：**いやー厳しい練習を毎日していました！（みんな笑う）**

児童：**２．３回だよな。（ちゃんと伝えてくれる児童もいる）**

冗談も言える関係性
授業の雰囲気を作っている

Miura:声も良く出るし、音程も素晴らしい。うまいなーそれでは、音と名前を確認しますね。

（**中学校の教員がアルファベットの音を確認した。**その後ひとりひとりのカード作業に入った。**担任の先生が全てアルファベットの名前を読み上げた。それぞれの指導者の強みを生かし、指導者が音と名前を分担した）**

(4)分析・考察

(4)－１　小学校の担任が持っている良さとは

小学校の担任が進める授業では、単元（いろいろな国）の導入で、地図帳を広げながら

児童の発言した国の位置を確認し、お互いの意見を伝え合っていた。授業は日本語中心で、英語はほとんど話されなかった。しかしながら、これから入っていくターゲットである“Where do you want to go?”“ I want to go to Italy.”への学習の土台を築いていた。小学校の担任は、クラスをコントロールすることが難しかったと授業後のインタビューで答えていた。しかし、自身が参与した限りでは、自分の気持ちを伝えたいという児童の思いにしっかりと担任が答えていた。そして、クラスの中で誰かが発言すると、その意見に対して他の児童が意見を述べたりするつながりがとてもいい授業の雰囲気を作っていた。小学校の担任は授業を進める際、児童の理解を促すための説明など重要な役割を果たしていた。そして、児童が安心して授業に参加していたのがとても印象的だった。さらに、特別支援学級の生徒が２度挙手発言する場面もあり、クラスのみんなが参加できるあたたかい雰囲気が教室にはあった。

筆者と小学校の担任が行った授業で、児童の指名については小学校の担任に全て任せた。いつも均等になるように、順番もよく考えられていた。小学校の担任が話す英語の発話量に関しては少ないという課題があるものの、授業を進めていく上ではとても重要な役割を担っているということがよく理解できた。

(4)－２　児童がゲームや活動に夢中になることをどのように捉えるか

小学校の担任と小学校の FLT のティームティーチングでは、カルタ取りゲームと椅子取りゲームが行われた。児童のインタビューにもあるように「ゲームは楽しい」と答えている。勝負がかかると児童はとても興奮する。すると、FLT の発話する英語をきちんと聞き取って活動することが停滞した。勝つことだけに夢中になってしまっていた。そこで、中学校の教員と一緒に行ったカードゲームでは、英語が聞こえたら持っているカードを出すということを行った。例えば月のカードで“respect for old people 敬老の日”と言ったら“September”を出すという学習である。しかし質問を理解し、それに対する月を答えることには困難性が見られた。これは、祝日の理解が浅かったことが考えられる。このように、何かな？と日本の暦に照らし合わせて答えを出すという活動は、自らの知識や理解を問い直すことにもつながる。最後にカードを出した時、ある児童が「どちらが勝ちなの？」と筆者に聞いた。つまり、ゲーム活動をすると児童は必ず勝負がつくという感覚を持っているということがよくわかった一場面だった。

この写真は、英語で聞こえた条件をもとにカードを並べていくというもの。12ヶ月の言い方や日本の休日や文化に触れることを通して、学びを深めている。勝ち負けはない。

(4)-3　教室でとびかう言葉を大切にしたい

小学校の FLT との授業で、いきなり児童が“How old are you?”と脈略なく FLT に話しかけた場面があった。場面設定の中で、いきなり目上の人にそれも授業の始まりに話すことはマナーに反することである。インプットされた言語がふさわしい場面で話されるように指導することが大切である。協働的に行った２回目の授業の中では、先生の名前を呼び捨てにしないこと、Ms をつけて「～さん、～先生」と意味することを指導した。このよう

に教室で飛び交う表現を、正しく教えることは初歩的な英語の運用能力として重要なことと考える。指導者が日常の授業実践の中で、このような思いや考えを伝え続けていくことこそ教育の本質ではないだろうかと考える。

(4)-4　小学校の担任と中学校の教員が行う協働的な授業作りでのメリットとは

児童のアンケートによると、思考を巡らせて考えることが「楽しい」と答えている。これは、聞かれていることに対して「何だろう？」と疑問を持って参加することである。児童のリクエストもあり、協働的な授業の中で２回続けて行った。児童はよく聞いて、しっかりと答えを出そうとしていた。このような仕掛けや体験などを積み重ねていくことが、学びの楽しさにつながるのではないかと考える。こうした指導法について担任の先生が「これならできそう」と授業後のインタビューに答えている。このように誰でも気軽に取り組める指導法を持つことによって、担任の先生が自信を持って授業ができるのではないかと考える。さらに、担任が積極的に英語を発話する場面が出ている。例えば、“She likes pink.”と筆者が小学校の担任の答えを文で紹介した後、小学校の担任はその後すぐに”I like pink!”と発話している。授業の流れの中で、これは大きな一歩だと思う。担任の先生が、英語を用いて自分のことを児童にしっかりと伝えていこうという意志の表れと言えよう。このような実践から、教師が簡単に発話できる指導の流れを組むことが大切である。

(4)-5　中学校の教員の役割と重要性とは

2014 年から始めた乗り入れ授業から 3 年目を迎え、小中学校の接続を意識した授業を行ってきた。中学校では、特に文字を書くこと、読むことがつまずきの原因になることが多い。中学校の教員が小学校の授業に関わることで、中学校期での学習の方法などを小学校期で伝えることができる。このことで書くこと・読むことのエッセンスを授業の中で少しずつ提供できるのではないだろうか。

(4)-6　特別支援学級の関わりと指導者の悩み

筆者は勤務校の特別支援学級で、支援級への継続的な参与観察・授業実践を行った。神奈川県藤沢市内では英語教育にニーズがあるものの、授業のやり方に困っている教員が多い。筆者の創成研修期間に筆者と英語科の若手教員が授業実践を試みた。生徒一人一人の個別の支援を大切にする視点は、授業のあり方にも変化変容をもたらす。特別支援学級の生徒一人一人に目を向けていくことは、通常学級での授業のあり方を問い直すことにもつながる。そして筆者の授業改善にもつながる大切な実践となった。

(4)-７　乗り入れ授業の継承

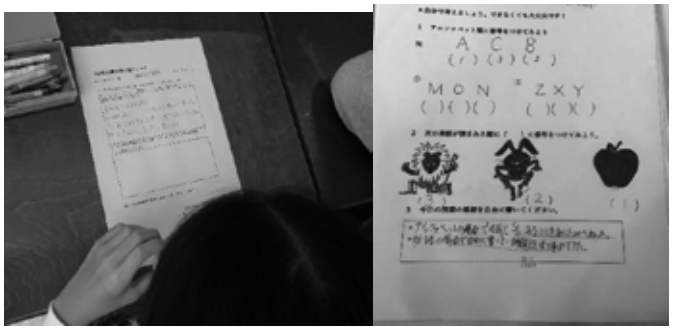
筆者は、勤務校の連携小学校で乗り入れ授業を実施している。このことを継承するために若手教員と小学校の外国語活動の実践を行った。こうした活動を通して、互いの学校の教員が指導方法・指導内容・教材などについての研究が深まるものと考える。

左の写真は、ICT の活用を行い児童の興味を引き出していた。右の写真は、児童がペアでのインタラクションに取り組んでいる。覚えて言う英語活動が中心ではあるが、今後の中学校への移行のあ

４．まとめと課題

(1)今後の方向性についての提案

本研究で一番大切にしたことは、小学校の担任の思いを理解した上で授業を作ることである。授業実践を進めていくと、小学校の担任も「こういう場合はどうしますか」等のたくさんの疑問を持つようになっていった。今後中学校の教員が届けられる専門性と小学校の担任が持つ良さを組み合わせて、より良い授業を構築することが期待できると感じた。このような協働的に授業を作り上げることは、簡単ではない。今後の外国語活動の教科化を迎える機会として、教員同士が授業実践することが前に進む一つの方法ではないかと考える。そしてその教科化に伴う評価や単元ごとの振り返りの課題もある。今後はポートフォリオ等のあり方も検討していくことが大切になるだろう。



左の写真は、授業の一場面を取り出して自身を振り返っている。
右の写真は 45 分の学びを確認するテストである。
今後、評価のあり方やポートフォリオなどの研究も必須となる。
（協働的な２回の授業の中で）

(2)外国語活動の授業を充実化させる概念図について

それぞれの指導者の良さ(強み)を生かし、より良い授業実践の積み重ねを試みる。指導者がお互いを認め合いながら、持続的に可能な限りの協働的な取り組みを推進したい。

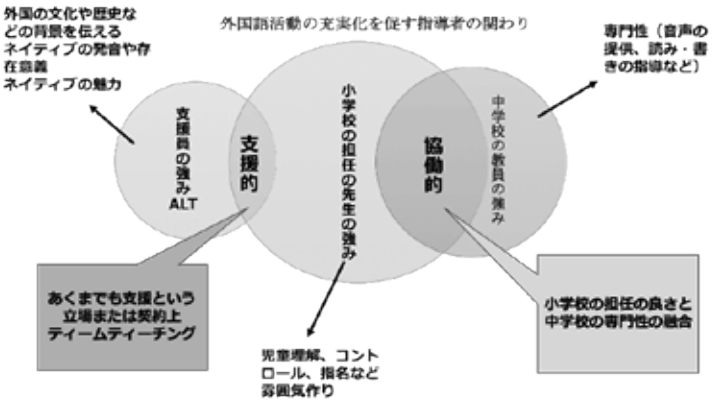
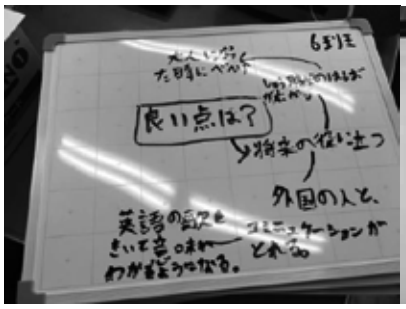


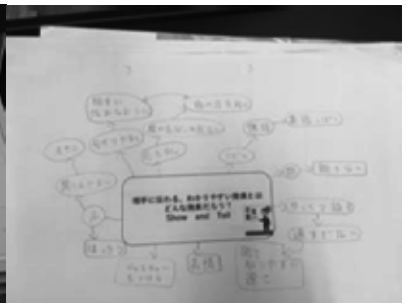
図１小学校の担任の先生を中心とした指導者間の関わり、それぞれの強みを生かして　（三浦作成）

５．現任校での取り組みとその現状について

2017 年 4 月に転勤となり、現在は中学校 1 年生を教えている。来年度、本校は藤沢市の研究発表を控えている。特に思考を整理するツールとしての「コンセプトマップ」を活用しながらそれぞれの授業改善を行っている。初めての英語学習に入る際「英語を学ぶ意義はやメリットは？」という問いに対して、生徒は様々な考えや意見を出し合っていた。また英語科としては、生徒の良さや特性を生かして表現活動の楽しさを追求している。その表現活動を行う上での問いでは「相手にわかりやすい表現とはなんだろう？」という考

えを深めてから発表活動に取り組んでいる。そこでは生徒自身が気付き、大切だと考えたことを自分の活動に生かそうとする誠実な努力が見られた。授業の中で生徒が充実感や達成感が持てるような表現活動を目指し、指導者は試行錯誤しているところである。





左図　学習に入る前
（4月）
右図　表現活動に入る前
（10月）
＊少しずつ慣れてきた形に変化してきている。

7.主要参考文献

- 井上真彰、渡辺良勝（2013）「小・中学校間の連携・接続に関する調査」『神奈川県立総合教育センター研究集録』32（pp.51-58）
- 粕谷恭子（2012）「外国語活動の指導法を変えた教師の語りから見る授業の変容」『英學論考』41(pp.19-29)
- 粕谷恭子、直山木綿子（2015）「小学校外国語教育改革に向けて、小学校教員に望むこと」『初等教育資料』4月号（pp.62-69）
- 黒川愛子、鈴木寿一（2014）「小学校外国語活動と中学校英語教育とのスムーズな接続に対するTotal Physical Response の有効性に関する実証的研究」『Language Education and Technology』(pp.51-80)
- 公益財団法人日本英語検定協会（H26.3）『小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査』
- 佐野正之(2005)『はじめてのアクションリサーチ　英語の授業を改善するために』大修館書店
- 文部科学省（2014)『英語教育の在り方に関する有識者会議』報告における五つの提言
- 高木亜希子・粕谷恭子（2013）「小学校外国語活動における教師の働きかけ　公立小6年生の授業の発話分析から」『青山学院大学　教育人間科学紀要』(pp.119-131)
- 中央教育審議会（2016）
- 野田哲夫（1994）「TPRの教授理論と理念」『英學論考』25(pp.101-115)
- 原　めぐみ（2016）「参与観察に基づく小学校外国語活動におけるティームティーチングの実態調査（学級担任と日本人英語教育指導助手による指導の場合)」『関西外国語大学研究論集』　第103号　Journal of Inquiry and Research No103（pp.109-117）
- 文部科学省（2016）『初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室』外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）